

## 公務員連絡会2019人勧期7.25中央行動

水沢高校分会・非専従執行委員 佐藤 貴之

7月25日、日比谷公園野外音楽堂で、「公務員連絡会2019人勧期7.25中央行動」が約3000人（高教組6人）の規模で開催されました。

最初に全体集会が行われ、その後、人事院との交渉の支援行動とデモ行進が、「月例給・一時金の引き上げ」「住居手当見直しの再考」「超過勤務縮減」「非常勤職員の労働条件改善」「ハラスメント防止」を掲げて行われました。この日、交渉団は人事院職員福祉局長、給与局長と交渉しましたが、前向きな回答は明確にはなく、結果は翌週の再交渉にゆだねられました。高教組から参加した組合員も熱くシュプレヒコールを叫ぶなど、暑い中での交渉支援にとりくみました。



## 第31回日教組栄養教職員研究集会

盛岡聴覚支援分会 小笠原 美波

7月27・28日の2日間、山形県にて第31回日教組栄養教職員研修集会が開催されました。開会行事では、日教組栄養教職員部の高木部長より、震災、国政、栄養教職員をとりまく情勢など様々な話題についてお話がありました。

その後の分科会では第1分科会「食教育の充実」へ参加しました。福井県越前町のレポートでは、「学校と家庭・地域に繋がる食育推進体制のあり方」についての報告がありました。地産地消食育推進体制が整備されており、生産者・直売所・漁協・行政・学校等の連携が図られていました。給食の地場産食材使用率は80%以上（県平均43.7%）、地場産使用品目数は50品目（県平均27品目）と高い数値でした。兵庫県芦屋市のレポートでは、「グルメの街芦屋のおいしいとりくみ」について報告がありました。食数は約500食ではあるが手作りにこだわり、色とりどりの食材を使用しており、見るだけでワクワクする給食でした。芦屋市の耕地面積率は0.2%と、地場産物はほぼ「ゼロ」の状況だそうです。そこで、県産県消をテーマとし、行政や生産者、市内のシェフと連携を取り合いながら様々な食育指導を行っていました。2つのレポートを聞き、それぞれの置かれている環境は違うけれど、地域の特性を把握し、その地域だからこそ出来る事を、周りを巻き込んで行っていく事の大切さを学びました。その後の、グループ討議では、各校の悩みやとりくみを共有することができ貴重な場となりました。



2日めは、フードスタイリストのマロンさんの講演でした。生い立ちや、給食に生かせるレシピの話など、さまざまな話をお聞きしました。「一皿一笑＝料理の数だけ笑顔がある」という言葉をお聞きし、子どもたちの笑顔を思いながら、献立作成に励みたいと思いました。

この2日間、普段なかなか知る機会の少ない他県のとりくみの様子や食に関する情報を得ることができ、とても勉強になりました。これからの職務に生かしていきます。

### 日教組19Web調査へのご協力ありがとうございます

「学校現場の働き方改革に関する意識調査」に対するたくさんの回答、ありがとうございました。このアンケート調査に回答することも「身近にできる働き方改革」です。多くの回答数が働き方改革前進への力になります。回答期限は9月1日までとなっていますので、まだの方は是非ご協力をお願いします。高教組H・Pや7月22日発行の高教組情報にQRコードやURLがあります。